

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400047		
法人名	株式会社 アップワード		
事業所名	上富田グループホーム さくら	【ユニット名:】2階	
所在地	和歌山県西牟婁郡上富田町朝来2086番地の12		
自己評価作成日	平成26年5月8日	評価結果市町村受理日	平成26年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3092400047-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成26年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日以外、毎日入浴していただくことができます。在宅での生活習慣に合わせ、夕方からの入浴となっております。 ・食事はすべてホームで手作り、できたてのおいしい食事を提供させていただいています。調理は入所者様と職員との共同作業で、食事が出来上がるまでの「過程」も楽しみのひとつです。包丁が使える方には野菜を切らせていただいたり、丸ごと買ってきた大きな魚を出刃包丁で3枚におろして下さる入所者様もおられます。 ・家庭菜園で野菜を作り、毎日水やりをして大きく育つのを楽しみにしています。収穫したらみんなで食べようと、ワクワクしながら野菜の成長を見えています。 ・買い物や散歩など、毎日戸外に出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者本位の支援を第一に考え、本人の意向を聞いて散歩や買物の支援を行っている。外出の希望がない利用者に対しても、短時間でも外気に触れる事ができるよう、細やかに配慮している。日曜日以外は毎日の入浴も可能である。食事は皮むきなど、できる範囲で利用者も手伝い、職員と同じテーブルで食事を楽しんでいる。協力医療機関による往診・訪問看護で24時間対応できる体制を整えて医療面での安心を提供するとともに、ホームでの看取りにも応じられるよう取り組んでいる。ボランティアの訪問による手芸の作品作り、野菜作りなど、利用者の楽しみも考慮し、笑顔いっぱいの毎日を過ごせるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「事業所理念」を玄関ホールの目に付きやすい所に掲示し、また全体会議において全員で唱和する事により職員間にて共有・実践しています。	利用者本位で笑顔いっぱいの毎日を過ごしてもらい皆に愛されるホームになるよう、職員間で共通認識を持って、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加するように心がけています。 地域のボランティアの方に来ていただき、押し花やちぎり絵の指導をしていただいています。	民家の少ない地域で、近隣とのつながりは薄いですが、地域の一員としての認識を持って、溝掃除にも参加している。町の文化祭にボランティアの指導で作った作品を出展するなど、行事を通して地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所の相談に来られた時や面会時に、認知症介護などでお悩みのご家族様の話をお聞きしたり、社会資源の利用方法などアドバイスさせていただきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4金曜日に運営推進会議を開催しており、状況報告を行なっています。 出席していただいた方には、地域のイベントの開催・外出に適した場所などの情報をいただき、ホームの年間行事の参考にさせていただきます。	年6回開催し、利用者・家族、市町村担当者、民生委員、医療関係者で状況報告、意見交換を行っている。花火・お祭り・文化祭等、行事の情報を得て、地域に出向いていけるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、介護保険係・地域包括支援センターの代表の方、民生委員、医療関係者、ご家族、入所者様に出席いただいております。	市の介護保険係・地域包括支援センターの担当者とは、日頃から様子を報告して話し合いの場を持っている。地域ケア会議にも出席するようになり、よりよい協力関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、月1回の全体会議において報告・連絡を行い、話し合う機会を設けています。	利用者の行動を妨げないよう、日中は鍵をかけず見守っている。家族から施錠やベッド柵の要望があっても、拘束しない理由を説明して理解が得られるように努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、月1回の全体会議において報告・連絡を行い、職員間での話し合いの場を設けています。		

【事業所名】上富田グループホーム さくら ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修会などはまだ行なえておりませんが、今後全職員を対象に実施していくよう努めます。入所者様が自らの能力に応じて出来る限り自立した日常生活を送ることができるよう、支援させていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書をていねいに説明し、納得していただいた上で署名・押印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者様の訴えには傾聴し、ご家族様の面会時には日頃の様子をお伝えし意見をお聞きして、運営や支援方法に反映させるようにしています。	家族の訪問の際に意見や要望を聞くようにしている。行事に合わせ家族会を開催し、意見や要望を出せる場を提供しているが、参加する家族は限られている。	家族や利用者とのコミュニケーションをより大切にして思いをよく聞き、信頼関係を築き、利用者や家族の声をサービスに反映していけることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員に気配りや声明を行い、意見や相談事が言いやすい職場環境作りに努めています。また、個別面談の機会を設けています。	管理者は普段から職員と話し合うことが多く、会議でも意見が出やすい環境となっている。代表者や管理者は職員の要望や提案も取り入れて運営していけるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、やりがいを持って働くことができ、ストレスをためないような職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加するように努めています。職員の資格取得・スキルアップのためのバックアップを行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会が少ないため、勉強会や他事業所訪問など積極的に行なっています。		

【事業所名】上富田グループホーム さくら ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接において、できるだけ詳しくご本人の心情や要望をお聞きするよう努めています。ご本人にお聞きできない場合はご家族から情報を得、安心して暮らしていただけるよう支援させていただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接や契約時にできるだけ詳しくお話しをお伺いし、ご家族の要望い対して共に考えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複数のニーズの中から、ご本人・ご家族にとって何を優先するのかを考え、ケアプランに位置づけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、尊厳を持って接しています。いつも顔なじみの職員がいることで家族のような関係を築き、安心して過ごしていただけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には日々の生活の様子を伝え、変わった事があれば必ず電話にて連絡・相談しています。1ヶ月に1回、生活の様子をご家族に郵送してお知らせし、また行事への参加の呼びかけも行っていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方が面会に来ていただきやすいような雰囲気作りに努めています。ご本人がご希望の際は、ご家族の協力を得て外出や外食をされています。	気軽に家族や親しい人の声が聞けるよう、事務所の電話を提供している。誰でも訪問しやすい雰囲気作りに務めている。	その人の馴染みの人や場所、習慣など、利用者・家族との会話を通して情報を集め、関係が継続できるように支援できることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や会話の中で職員が橋渡しをし、入所者様同士が仲良く、孤立せずいられますように配慮させていただいています。		

【事業所名】上富田グループホーム さくら ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方がいつまでもお元気でられますように、現入所先に面会に行かせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望や意向に添うように努めています。 ご本人の意思確認が困難な場合は、ご家族よりお聞きしています。	利用者の昔の様子や思いなど会話を通して引き出せるよう接している。家族からも本人について聞きながら、思いや希望に沿った支援ができるよう務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族、これまで関わって来られたケアマネジャーやサービス事業所から情報収集を行ない、聞き取りした事は「入所前情報」として全職員が把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの毎日の様子を詳細に介護記録に残し、変化があった場合はノートにも記録した上で、毎日の業務引継ぎ時に申し送りをして情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員、それぞれの意見を聞き、3ヶ月に1回モニタリング・ケアプランの見直しをしています。 また、毎日の支援がケアプランに添ったものであるか、問題点はないか、毎日チェックしています。	入居前の様子も考慮し、利用者・家族とも話し合い現在一番必要なケアを計画して支援に生かせるよう務めている。3ヶ月に1回見直しを行い利用者一人ひとりに添った支援ができるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を、いつ・誰が見てもわかるように詳細に記録し個別にファイルしており、職員はいつでもその記録を見ることができます。記録はケアプランの見直しやモニタリングの際にも役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりのニーズの違い、また同じようなニーズであってもADLや環境その他の状況によって生じるサービス内容の違いを、その都度ご本人・ご家族・職員と共に、その人に合った支援方法を常に考えています。		

【事業所名】上富田グループホーム さくら ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に協力いただき、ちぎり絵・押し花の指導に来ていただいています。町内のイベントの情報を役場からいただいて行事計画を作成し、外出はできる限り町内を利用するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医による月2回の往診の他、ご本人やご家族がなじみの主治医や専門医の受診を希望される場合は通院の支援をさせていただいています。連携医とは常に連絡をとり、24時間体制にしております。	協力医療機関の医師の往診・訪問看護で24時間対応できる体制を作っている。協力医療機関以外の個々のかかりつけ医への受診も希望に応じて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護により、入所者様の健康管理をしています。職員への療養上のアドバイスや主治医との連携、夜間の緊急対応もいただいています。入所者様の日々の状況を確実に看護師に伝え、適切な医療を受けられる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には速やかに医療機関への情報提供を行ない、入院中は病院関係者と連絡を取りながら状況把握に努めています。退院前には必ずご家族・医療関係者とカンファレンスを行ない、病状の確認をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時や契約時に、重度化やターミナルケアについての説明を行なっています。開所から日が浅いためまだ実践には至っていませんが、十分な体制を整えています。	看取りの経験はまだ無いが、入居時など早い時期に家族に説明を行い、希望があれば医療関係者の協力を得て事業所として行うことができる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故・感染症などの発生時の対応についてマニュアル化し、職員間で話し合い、徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の予定で消防署立会いのもと火災時の避難訓練を行なっています。オール電化で、スプリンクラーも完備しております。	消防署の協力で避難訓練を年2回行い、2階バルコニー・玄関前の駐車場を避難場所に決めている。夜間の想定での訓練は行っていないが、職員による経路の確認はできている。災害に備え、水を備蓄している。	夜間を想定した避難訓練も行うことが望まれる。地域住民にも働きかけ、災害時の協力関係を持てるよう今後に期待したい。食料の備蓄の確保も望まれる。

【事業所名】上富田グループホーム さくら ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様ひとりひとりの今までの生活歴を把握し、人生の先輩として尊厳を持って対応させていただいています。 特に言葉使いには気をつけています。	利用者の部屋の名札に保護ケースをつけて個人のプライバシーに配慮している。利用者の名前を姓で呼ぶようにして全職員が、ていねいな言葉がけで対応するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様の思いや希望を表しやすい環境を作り、無理強いせず、自己決定された事に対して共感し、支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせ、入所者様が自由に過ごしていただけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝間着のメリハリをつけ、自分で好みの服を選んでいただけるよう配慮しています。2ヶ月に1回の訪問カットでは、女性には美容師、男性には理容師が希望に添ったヘアスタイルにカットしてくれます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て職員と入所者様の手作りです。キッチンでおかずを作ったり、炊飯のにおいなど調理の過程を感じていただくことができます。包丁を使って野菜を切ったり、味見・盛り付け・後片付けなど、職員と一緒にこなしています。	法人本部で作成した献立をもとに材料を揃え、職員が手作りしている。職員も一緒にテーブルにつき、利用者と会話をしながら食事を楽しんでいる。	季節の食材を話題と一緒に献立を考えるなど、食を通してコミュニケーションや5感を使う生活リハビリを行なえる独自の支援が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を細かく記録しチェックしています。入所者様の好みを把握し、摂取量が少ない時は代替のもので対応したり、体調に合わせて食事形態を変更したり、臨機応変に対応できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨き・義歯洗浄・うがいを行ない、職員がチェックしています。 自分で出来る方には声かけ・見守りをし、困難な方には職員が付き添い口腔ケアをしています。		

【事業所名】上富田グループホーム さくら ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてチェックしながら、適宜トイレ誘導を行なっています。トイレの場所がわかりやすいように工夫しています。	排泄表や水分表をチェックしながら利用者一人ひとりの様子を観察し個別の支援を行っている。予防的にパッドを使用し、夜間のみポータブルを使用するなど、個々に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトや果物を提供、屋外への散歩やラジオ体操など適度な運動を行なっています。排便に関しては訪問看護師にもアドバイスをいただき、時にお薬などで調整させていただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外はご本人の希望に応じて毎日入浴していただく事ができます。入浴時間は午後4時からです。「浴槽につかる」ことの楽しみを大切に、一般浴槽に誰もが安全に入っていられるように工夫しています。	夕方4時から入浴できる。個別の入浴でリラックスし、歌をうたう人もいる。誘っても拒否する利用者には無理強いせず足浴を行うなど、本人の意向に添って工夫しながら入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床や静養など、入所者様の希望通りにさせていただいています。夜間はゆっくり眠ることができるよう、静かな環境作りにも努めています。就寝・起床の時間は決めておらず、入所者様のペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎にお薬の明細をファイルしています。また「服薬一覧表」として1枚の紙にまとめ、入所者様がなぜ・どのような薬を服用しているのかわかりやすいようにしています。服用時は最低3回の確認を行ない、誤薬のないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業の経験のある方は野菜や草花の手入れ、絵画の好きな方は静かな環境で画いていただく、外出したい方は一緒に買い物に行く、皆でひとつの物を作り上げるなど、一人ひとりに合った楽しみややりがいを考えながら支援させていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と一緒にスーパーに買い物に出かけたり、戸外を散歩したり、毎日必ず外へ出かけられるように工夫しています。外食や花見・遠足・地域の行事への参加など、計画を立てて取り組んでいます。	1日1回は外出するように全職員で協力して取り組み、本人の意向を聞き散歩や買物に出かけている。お花見・初詣・地域の行事など、季節の外出も計画して取り組んでいる。	

【事業所名】上富田グループホーム さくら ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所でお預かりしていますが、ご本人が希望された時はお預かりしている中から財布にお金を入れ、好きな食べ物や衣類など自分で買い物ができるように支援させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方には気軽に事務所の電話を使っただけできるよう、常に開放しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやローカに手作りの作品や写真を展示したり、花を飾るなどの工夫をしています。 南向きの明るいリビングは、とても過ごしやすい空間です。	リビングは南向きで窓が大きく開放的で採光がよく、その日の天気や景色がよく見える。トイレは居室の横にあり利用しやすい環境にあるが、一部便座が不安定になっているところがみられた。	利用者の立場に立って、不具合がないか常に点検を怠らないよう心がけたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・テレビを設置し、自由に過ごしていただけるようにしています。 対面式キッチンには必ず職員がおり、安全面にも配慮し、常に見守りが行なわれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にできるだけ使い慣れた家具などを持ち込んでいただくようお願いしています。 大きなタンス、読書用の机など持って来られている方もおられます。	使い慣れた家具を持ち込むなど、居心地よく過ごせるように配慮している。タンスや読書用机などを置いたり、絵画道具も持参して絵と手作りの手芸作品を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に、できるだけ自立した生活をしていただけるように、全館バリアフリーで手すりを設置して、見守りのしやすい配置になっています。		